

日東工器 2013年環境報告書

Environmental Report 2013

NITTO KOHKI CO.,LTD.



発行目的と編集方針

日東工器株式会社の環境、社会への取り組みと現状を株主やお取引先をはじめとするステークホルダーの皆様にご理解いただき、皆様とのコミュニケーションを深めていくことを目的としています。社会貢献活動や環境負荷についての指標を中心に、正確で透明性の高い情報開示をモットーに編集を進めました。財務情報、企業情報について詳しくお知りになりたい方は、ウェブサイトをご覧ください。

対象期間

2012年4月～2013年3月

対象範囲

原則として、日東工器株式会社としています。また、参考としてグループ企業の栃木日東工器、白河日東工器、メドテックおよび海外グループ会社の環境負荷の状況報告を含んでいます。

発行時期

- 発行日：2013年5月10日
 - 次回発行：2014年5月予定
- 日東工器では2010年から環境報告書を発行しています。

ガイドライン（参考）

- 環境省
「環境報告ガイドライン（2012年版）」
- GRI
「サステナビリティレポート
ガイドライン（G3）」

お問い合わせ先

日東工器株式会社
環境推進部
●TEL：03-3755-1111（代）
●FAX：03-5700-7192

後発事象

2013年4月1日以降、発行日現在までの後発事象はございません。

<http://www.nitto-kohki.co.jp>

免責事項

この報告書には、日東工器の過去と現在の事実だけでなく将来についての計画、予想および見通しの記述が含まれています。これらの記述は、現時点で入手した情報に基づく仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なる可能性があります。

Chapter 1

環境への取り組み

Chapter 2

社会への取り組み

編集にあたって	1
ごあいさつ	2
事業分野	3
内部統制・コーポレートガバナンス	5
Part 1 日東工器が目指す環境経営	6
Part 2 環境マネジメントシステム・ISO14001認証	6
●環境方針	
●環境マネジメント体制	
●環境マネジメントシステムの構築・運用状況	
Part 3 地球温暖化対策と実績	7
●地球温暖化防止に向けた活動	
●CO ₂ 排出量	
●電力使用量	
Part 4 廃棄物の削減	8
●廃棄物排出量	
●紙類リサイクル量	
●コピー用紙使用量	
Part 5 環境への影響について	9
Part 6 製品含有化学物質への取り組み	11
●環境教育の実施	
●環境に関する規制の遵守状況	
●グリーン調達	
●製品含有化学物質調査	
Part 7 製品開発	12
●環境配慮設計	
●環境配慮製品の提案	
Part 8 生産部門の取り組み	13
●メドテック	
●栃木日東工器	
●白河日東工器	
●国内生産子会社の小集団改善活動	
●タイ工場の洪水対策	
Part 9 オフィスの取り組み	15
●最大使用電力量の削減	
●雨水利用量	
●オフィスの室温管理	
●名古屋支店のオフィスの取り組み	
Part 1 地域とともに	16
●第12回エコフェスタワンダーランド	
●日東工器	
●栃木日東工器	
●メドテック	
Part 2 顧客との関わり	19
●営業部門の取り組み	
Part 3 学生との関わり	20
●会社説明会から入社まで	
●インターンシップを開催	
●「働く現場見学会」を開催	
Part 4 社員および家族との関わり	21
●子ども参観日	
●ライフプランセミナー	
●障害者の仲間など	
●社員向け決算説明会	

ごあいさつ



日東工器株式会社 代表取締役社長

小武 尚之

社是

開発は企業の保険なり

社是にある「開発」には4つの意味が含まれています。

- ① 社会に貢献する製品開発
- ② 販売市場の開発
- ③ 人材開発
- ④ 組織管理体制の開発

これらの開発に全力を尽すことが、会社の経営体質を強化し会社の永続的な発展を保証する、すなわち「保険」であるということです。

社訓

- 創意を発揚し技術を蓄積しよう
- 鋭気を涵養し活力を蓄積しよう
- 誠意を尽くし信用を蓄積しよう

職場は社員の人格形成の場であり、すばらしい人生を送ってもらいたいという願いを込めた社訓で、社員の行動規範を示しています。「技術」とは職務上の技術と能力のことで、「活力」とはファイト盛んな心身の活動力です。また「信用」とは世間の信頼を得る力です。これら「技術」「活力」「信用」のバランスを保ちながら蓄積していくことで、社員が人間的に成長し、ひいては会社の発展につながります。

環境問題への 取り組みを通して 永続的な発展を目指します。

東日本大震災と原発事故によって、日本では温室効果ガスの排出量削減に向けた取り組みが一時的に停滞しています。しかし、地球規模の観点に立てば、新興国の爆発的な人口増加や工業化の加速による環境への影響が年々深刻化しています。環境問題への取り組みは待ったなしの状況です。

このような状況の中で、私たち日東工器グループは環境活動を休むことなく継続して推進しています。2011年度から、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証範囲を大阪支店、名古屋支店にも広げ、日東工器グループ全体でより広範な領域にわたって環境負荷低減に沿った事業を展開しています。

また製品においても、省エネルギー性に配慮することはもちろんのこと、RoHS指令や欧州化学物質規制REACH規則をはじめとする製品含有化学物質規制の遵守と製造工程における環境負荷低減に対応しております。このため、社内はもとより協力会社など仕入れ先を対象とした研修を定期的に開催するなど、製品含有化学物質管理体制の充実・強化に向けた努力を積み重ねています。

さらに、製品含有化学物質のデータをITシステムにより管理し、製品に関わる原材料・部品・製造などの更なるトレーサビリティの確保を図っています。

私たち日東工器グループは、50年余の歴史で培ってきた技術に基づく省力化機器とサービスの提供を通じて社会に貢献してきました。そして、信頼を高めるコーポレート・ガバナンス強化と併せて、これからも地球環境に配慮した製品を開発・普及させていくことで、社会全体の環境負荷低減への寄与と事業の永続的な発展を図ってまいります。

今回の報告書は、2012年度の日東工器グループの環境保全活動をできる限り詳細にご報告したいと考え、取りまとめたものです。ご高覧いただき、日東工器グループの社会・環境への取り組みにご理解を賜ると同時に、忌憚のないご意見やご提案をいただければ幸いです。

事業分野

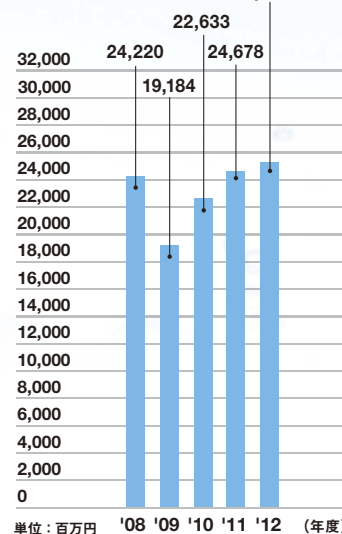
日東工器は「開発は企業の保険なり」を社是に、独創的な技術による事業活動を展開してきました。モノづくりを追求するメーカーとして「時代のニーズに応じた製品開発」、「信頼が高く、誠実な技術」を基本とし、半世紀以上にわたって事業を営んでいます。その事業は ①25,000種におよぶ迅速流体継手「カブラ」②鋼材穴あけ加工機「アトラ」や溶接のスパッタ取り工具「ジェットタガネ」などの機械工具、電動ドライバ「デルボ」③リニア駆動ポンプ・その他のポンプとその応用製品④ドアクローザの建築機器、の4分野で構成されており、その卓越した性能・品質によりいずれも高い顧客満足度を得ています。社にはある「開発」とは技術・製品だけでなく、マーケティング（営業）、人材育成などのイノベーション（創造的な変革）を意味しています。日東工器は、開発の深耕を軸とした経営によって、今後とも一層の成長・発展を目指していきます。

作業の省人化・省力化を軸に産業の未来を創造します。

経営指標（連結決算指標）

売上高（連結）

25,281



Couplings

迅速流体継手（カブラ事業部）

37.4%

%は売り上げ構成比
2012年度実績（2013年3月期）



迅速流体継手「カブラ」は、さまざまな流体の配管を、素早く確実に接続・分離できる製品です。

カブラ事業部は、特注品も含め航空宇宙産業用から一般家庭用まであらゆる業界のニーズに対応したモノづくりを行っています。

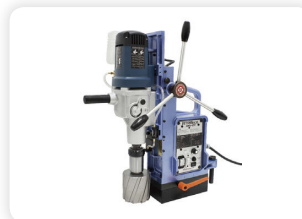
2012年度に開発した製品には、災害時などの使用を想定した、非常用LPガス発電機用カブラ（写真左）などがあります。また環境保全に注視した機器への対応として、高水圧・大流量に対応したステンレス製高圧カブラ「HSUカブラ」（写真右）などを取り揃えています。

Machines & Tools

省力化機械工具（機工事業部）

38.5%

%は売り上げ構成比
2012年度実績（2013年3月期）



機械工具は、鋼材の穴あけ、研磨、剥離など、各種金属を加工する製品です。

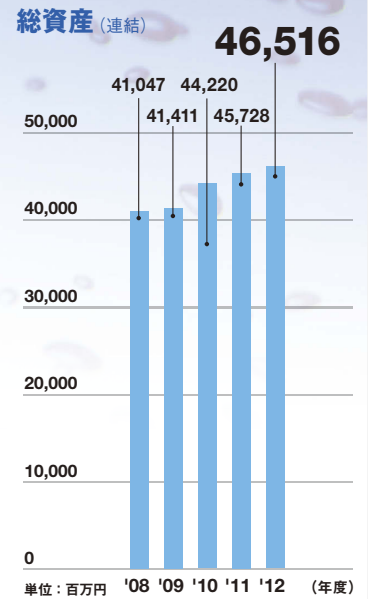
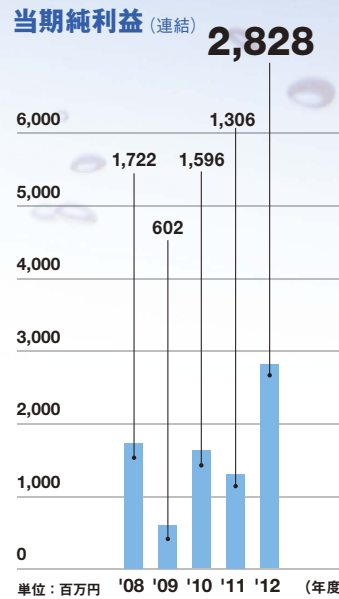
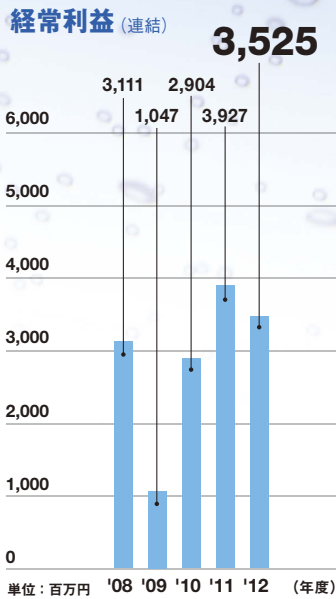
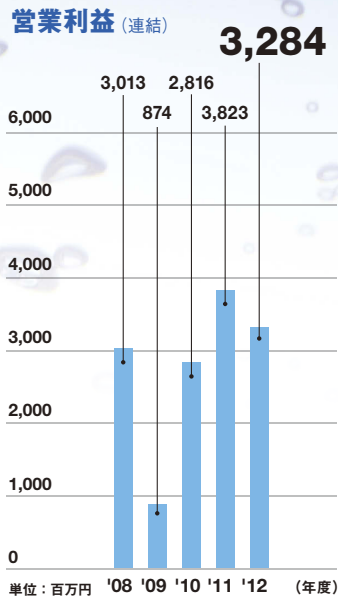
アトラARA-100（写真左）は、鋼材に穴を開ける製品です。従来品A-100と比べて、約40%の軽量化を実現、再起動防止回路などを搭載して、より安全性を高め、作業者に優しく、環境に配慮しました。

「デルボ」は、組立工場などでねじ締め作業に活躍する電動ドライバです。DLV8104 / 7104シリーズ（写真右）は、デザイン変更による操作性の向上、長寿命カムの採用などにより、作業者に優しく、環境に配慮した製品となっています。

会社概要

- 商号：日東工器株式会社
- 設立年月日：1956年10月22日
- 本社所在地：東京都大田区仲池上二丁目9番4号
- 資本金：18億5032万円（東証一部上場:機械）
- 従業員数：単体 391人（連結 946人）

- 国内グループ会社：4社
栃木日東工器株式会社、白河日東工器株式会社、株式会社メドテック、メド産業株式会社
- 海外グループ：11社
アメリカ、イギリス、ドイツ、タイ、オーストラリア、韓国、中国（2013年3月31日現在）



Pumps

リニア駆動ポンプとその応用製品（リニア事業部）

15.7%

%は売り上げ構成比
2012年度実績（2013年3月期）



リニア駆動ポンプは、小型で軽量、作動音や振動が少なく、低消費電力、長寿命などが特長で、日東工器が世界で初めて実用化した製品です。オイルレスのためクリーンな空気源が求められる医療機器、浄化槽などで活躍しています。

その他に圧電素子駆動の「ユニモルポンプ」、DC駆動ダイヤフラム式コンプレッサDP0410（写真左）など、各種ポンプ・コンプレッサをラインアップしています。

その用途は、医療・福祉・健康機器（エクセレントメドマーEXM-12000A（写真右）など）・環境関連機器など、さまざまな分野へと拡大しています。

Door Closers

ドアクローザ（建築機器事業部）

8.4%

%は売り上げ構成比
2012年度実績（2013年3月期）



ドアクローザ「オートヒンジ」は、電力などの動力源を必要とせず、ドアを支えて静かに・安全に・自動的に閉める、環境に配慮した製品です。

小型丁番2000シリーズ（写真左）は、材料・流体力学を駆使し、ボディのスリム化と長寿命化によりすっきりとした美観と耐久性を兼ね備えた、安全・安心に扉をゆっくりと静かに閉める製品です。

引き戸クローザ（写真右）は、コンパクトな納まりとユーザーに優しい設計となっており、病院、福祉施設などでの需要が拡大しています。

コンプライアンスの見地からドア周辺機器の重要性が高まっており、用途に合わせた製品の開発を進めています。

内部統制・コーポレートガバナンス

日東工器のコーポレートガバナンスの目的は、企業価値を高めていくためのものです。
その認識に立ち、経営の監視が適正に機能し、
適時適切な情報開示によって透明性を確保できるよう努めています。

内部統制

内部統制システムは、内部統制委員会と傘下の5つの委員会で構成され、内部統制の運用状況を毎月確認し定期的に取締役会へ報告しています。また、独立した内部監査部門として監査室を設置して組織の統制環境、統制活動、リスク分析と評価、情報伝達の正確性、業務改善の確認、法令遵守状況を客観的な立場で計画的な監査を実施しています。

コンプライアンス

内部統制による職務の適正を確保するため、知財法務部、コンプライアンス室を設置し法令遵守、企業倫理遵守の助言、指導を行っています。また、専門知識を有する各種委員会および部門が主催する教育を必要に応じて開催し、コンプライアンス意識を高めています。各種委員会組織をまとめている内部統制委員会は、法令に違反する行為、コンプライアンスに関する重要方針など、コンプライアンス体制に関する事項の審議を行っています。また、コンプライアンス違反に関する相談は、内部通報制度（ホットライン）で行っています。

2012年度は「ハラスメント」をテーマに国内グループ会社の全社員を対象に研修会を開催しました。1月には生産子会社を対象に内部統制システムとハラスメントの説明を行いました。パワハラメントの自己診断では、パワハラ度を確認しました。日東工器では2月と3月に本社大会議室において、顧問弁護士による基調講演を実施し、その後、営業拠点で研修会を開催しハラスメントへの意識を高めました。

リスクマネジメント

危機管理委員会は、リスクマネジメントの一環として、総合的なBCP（事業継続計画）の構築・運用を目的として組織しました。はじめにパンデミック対策マニュアルの作成や非常用備品の準備からスタート、その後、災害対策マニュアルの作成や非常用備品の充実を図るための活動を重ね、事業および社会に及ぼす影響を最小限にする体制構築を目指して活動を続けています。

危機管理委員会では、2011年の東日本大震災の経験を基に、災害発生時に、社員の状況を迅速に把握するための手段として、グループ全社員を対象にした安否確認システムを2011年7月に導入しました。さらに2012年には、主要拠点間の情報共有を確実にするため、災害に強いMCA無線（デジタル業務用移動通信）の導入や、地震発生時および帰宅時の安全確保のため、全社員にヘルメットの配付も実施しました。

BCPへの対応としては、東京直下型地震により本社機能が停止するという想定で、代替本社としての機能を大阪支店に、また代替オフィスとしての機能をグループ会社の栃木日東工器に設置する、業務継続のためのマニュアル整備作業を進めています。

防災訓練

本社では、自衛消防隊を再構成し、防災訓練で検閲を行いました。

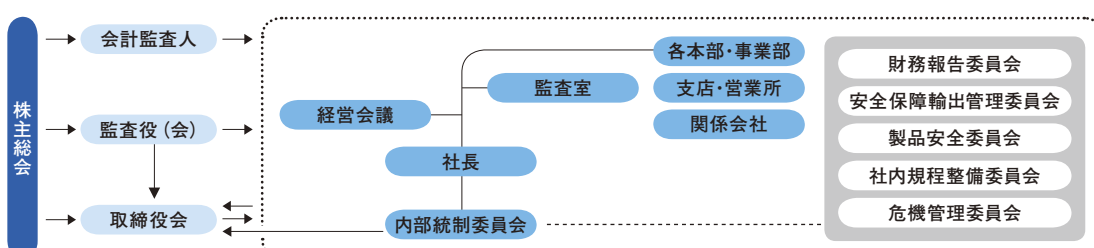
2012年の防災訓練は消防署の協力を得て、「火」を訓練用消火器で消火する訓練も実施するなど、熱の入った訓練をしました。また、安否確認システムの訓練も実施しました。



救命講習会

社員向けの普通救命講習会を毎年実施しています。救命技能を修得し、災害に備える体制作りを進めています。最終的には、本社全社員が受講する予定です。

内部統制システム組織図



全てのステークホルダーに誠意を尽くし、信用を蓄積し続けます。

1 環境への取り組み

Part

1

日東工器が目指す環境経営

環境と人に配慮した、持続可能な経営を目指します。

地球環境に配慮した省エネ、コンパクト化を目指す製品設計、環境や人への影響を考慮した材料の選定・調達、製造における加工技術や加工方法の研究、高効率化による資源の有効利用と、省エネルギー生産による環境負荷の低減、効率的な製品輸送によるCO₂排出量の削減など、製品づくりからお客様への提供までを通じて環境に配慮した事業活動を目指します。お客様のあらゆる分野で、作業の省人化・省力化に貢献する多彩な製品を国内外へ、独自の営業ネットワークを通じて提供しています。当社の製品を使うことにより人や社会が豊かになり、継続的な事業活動を展開することで人や社会に貢献し、成長・発展を繰り返すことで、地球環境と人に配慮した持続可能な環境経営が推進できるものと考えています。

Part

2

環境マネジメントシステム・ISO14001認証

日東工器は、地球環境への負荷軽減を当然果たすべき社会的責任と認識し、重要な経営課題として位置づけています。「環境方針」を制定し、環境マネジメント体制を推進し、すべての業務の中で環境負荷軽減に努めています。

環境方針に則り経営の一環として地球環境への負荷軽減に取り組みます。

環境方針 Environmental policy

理念

日東工器株式会社は、産業界の省力化と作業環境の改善を不変のテーマとし、独創技術による高品質・高機能・高信頼性の製品づくりに邁進して来ました。製品を通じての地球環境への取り組みばかりでなく、事業活動を通じて地球環境への負荷軽減が当社の果たすべき重要課題であると認識し、全ての面で社会的責任を果たします。

基本方針

- 1 日東工器株式会社は、迅速流体継手「カブラ」、機械工具（空圧機器/油圧機器/電動機器）、空気圧縮機・ポンプおよびそれらの応用製品、建築機器（ドアクローザ）などを提供する事業を通じ、製品設計から販売までの全ての業務において環境保全に努めます。
- 2 環境配慮の製品設計、グリーン調達・購入、省資源・省エネルギー、リサイクルの促進、廃棄物の削減などに取り組み、環境汚染の予防に努めます。
- 3 環境関連の法規制、および当社が合意した協定事項を遵守します。
- 4 環境目的・目標を設定し、運用し、定期的に内部監査・マネジメントレビューを行い、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
- 5 この方針は文書化し、全従業員に周知徹底すると共に、社外からの求めに応じて公開します。

環境マネジメント体制

環境マネジメントを推進する体制として、EMS（Environmental Management System）部門長会、環境委員会、内部環境監査グループ、グリーン調達委員会を設置し、コンプライアンス室を事務局としています。

環境マネジメントシステムの構築・運用状況

ISO14001環境マネジメントシステムに準拠した「環境マニュアル」に基づき環境マネジメントシステムを構築・運用しています。運用にあたり、以下のように実施しています。

①EMS部門長会議の開催

定例EMS部門長会議を3月初旬に開催し、次期のEMS組織と役割、第三者認証審査などの年間計画、内部環境監査結果の伝達などを行います。

②環境委員会の開催

毎月各部門の環境実績報告により、目的・目標に対する実施・進捗状況を確認します。また、EMSの維持管理と各部門への伝達などを行います。

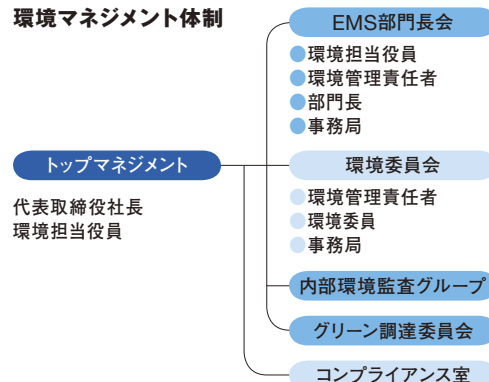
③内部環境監査の実施

年に2回、内部環境監査員による各部門の監査を実施します。内部監査に先立ち、内部環境監査員会議を実施し、第三者認証審査結果と前期の内部環境監査結果の伝達などを行います。

④マネジメントレビューの実施

環境管理責任者は必要な情報を収集し、「環境マネジメントレビュー報告書」を作成してトップマネジメントに報告します。この報告書に基づき、環境担当役員は年1回、4月に定期レビューを行います。

環境マネジメント体制



地球温暖化対策と実績

日東工器は、環境方針に則って目標を定め、地球温暖化防止のため省エネ・省資源への取り組みを推進しています。

地球温暖化防止に向けた活動

2012年度の日本は、東日本大震災と原発事故の影響によって、温室効果ガスの排出量削減に向けた取り組みが一時的に停滞していますが、日東工器は、環境省主導の地球温暖化防止のための国民的運動である、「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、CO₂削減に向けた活動を展開しています。

本社ビルの建替においては高断熱化、窓は複層ガラスを採用、雨水をトイレの排水に使用、上階にも緑化をするなど温暖化を意識した構造となっています。大阪支店の改築においては環境を優先した空調機器、LED照明の採用、名古屋支店では使用頻度の高い照明をLEDに変更しました。

日々の営業活動に使用している自動車には、2006年よりハイブリッド車への切り替えを実施しており、2012年度までに合計27台を切り替えました。2013年度は、10台をハイブリッド車に切り替える予定です。また各営業担当者は、日常の省エネ運転を実施して自動車燃費の向上に努めています。これらの活動は環境マネジメントシステム（ISO14001）で展開しています。

このページでは日々の企業活動を通じて実施している主な活動の実績を報告します。

省エネ・省資源に努めCO₂の排出を削減していきます。

CO₂排出量

2011年度から認証範囲に加わった大阪支店と名古屋支店の排出量を加えた2012年度の日東工器全社の実績は890.3tとなり、2011年度排出量896tに比べて5.7t減少しています。ただし、本社の2012年度CO₂排出量の実績は723tと、2011年度の712.7tに対して若干ですが増加してしまいました。2013年度は本社も含め、少しでも削減できるよう努力していきます。

なお、その他の温室効果ガスについては、排出量が微少なため、報告事項からは割愛しています。(図1参照)

電力使用量

大阪支店と名古屋支店を加えた2012年度の全社の電力使用量は、1,877千kWhと2011年度の電力使用量に比べて11千kWh削減しました。本社の電力使用量は1,708千kWhで、東日本大震災後の計画停電時の1,688千kWhとほぼ同じ水準にまで下げることができました。待機電力の削減、暖房・冷房の空調管理によるウォームビズ・クールビズの実施、照明のLED化、最大電力の監視など、EMS活動とリンクして省エネルギー活動を実施した成果によるものです。

今後も東日本大震災後の2011年度をベースに削減を図っていきます。(図2参照)

図1 CO₂排出量の推移（日東工器）

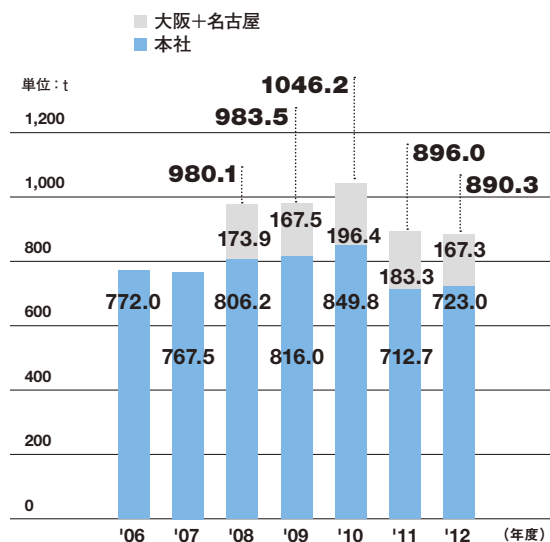
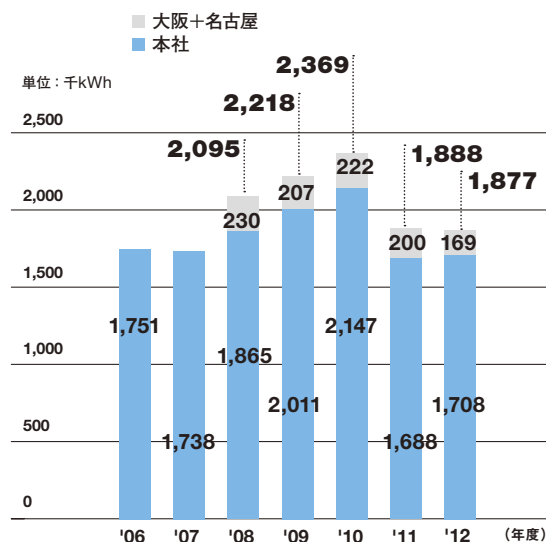


図2 電力使用量の推移（日東工器）



廃棄物の削減

資源を最大限有効活用することは、メーカーとして最も大切な精神の一つです。

日東工器は、リデュース、リユース、リサイクルの推進を通して、コスト削減と環境保全を両立し、地球環境とユーザーに配慮したモノづくりを推進してまいります。

廃棄物排出量

2012年度の廃棄物排出量は12.2tで、2011年度に比べて0.1t減少しました。

日東工器は資源を最大限有効活用するため、できるだけ廃棄物を材料ごとに分解して、リデュース、リユース、リサイクルの3Rを推進し、ごみゼロを目指して活動しています。2011年度から活動に参加した大阪支店と名古屋支店においても積極的なEMS活動の結果大きな成果をあげました。なお、国内の各営業所においても本社、支店に準じた活動を行っています。

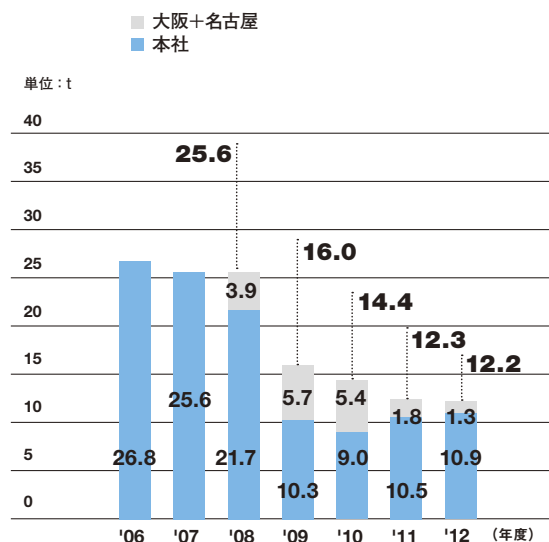
リデュース、リユース、リサイクルの3Rを徹底し、今後も引き続きごみゼロを目指して活動していきます。(図3参照)

紙類リサイクル量

2012年度の紙類リサイクル量は28tで、2011年度に比べて1.4t増加しました。残念ながら、過去においては紙類のリサイクルに対する意識が低く、細かく分別せずに燃えるごみとして廃却していました。9年前からリサイクル・回収活動に関する教育を開始し、紙の種類ごとに分別することで、リサイクルできる割合が増加しました。活動当初は大きな効果をあげましたが、紙の無駄使いが減少していくとともに、紙の使用量自体が減少し、リサイクル量は一定水準で推移しています。

今後も分別を徹底し、リサイクルを推進していきます。(図4参照)

図3 廃棄物排出量の推移 (日東工器)



コピー用紙使用量

2012年度のコピー用紙使用量は5.9tで、2011年度に比べて0.9t削減することができました。

各種資料のコピーは、使用済みコピー用紙の裏面使用、両面コピー、1ページに複数ページを印刷するNアップ印刷や、すべての資料をコピーせずに重要なページだけをコピーすることによる会議資料の削減、など合わせ保管資料を電子化することにより更なる減少を目指しました。

今後も各種資料の電子化などを図り、無駄を減らしていきます。(図5参照)

図4 紙類リサイクル量の推移 (日東工器)

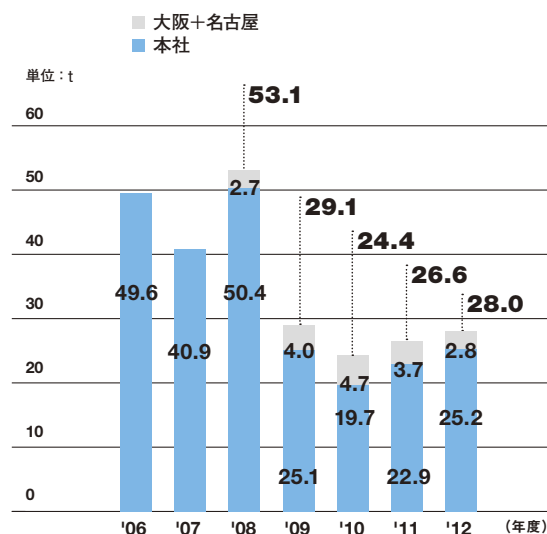
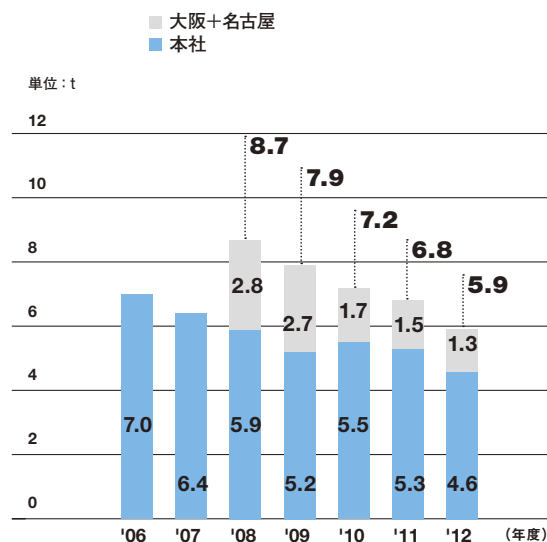


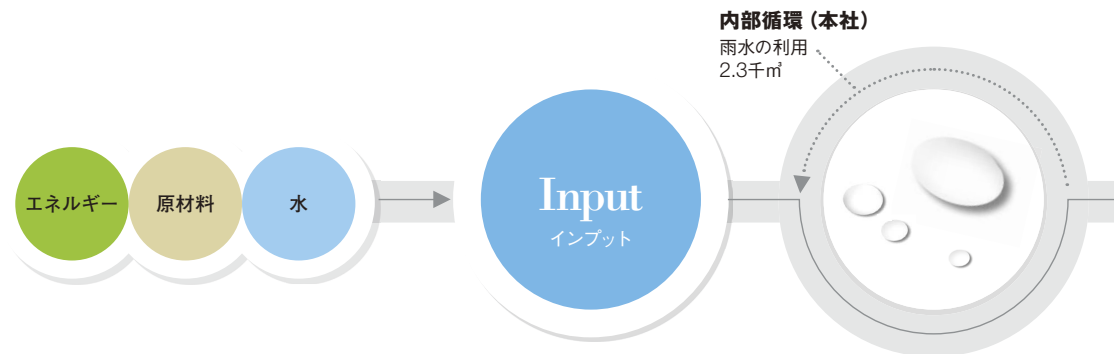
図5 コピー用紙使用量の推移 (日東工器)



資源を最大限有効活用し地球とユーザーに貢献します。

環境への影響について

日東工器の国内拠点において、2012年度に投入したエネルギー量・水資源量・原材料その他購入品の量と、排出した環境負荷量・廃棄物量・リサイクル量および製品として出荷した量は以下のとおりです。



日東工器株式会社

インプット
INPUT

エネルギー	購入電力	1,877.3千kWh	ガソリン	102.7kℓ
原材料	鉄	71.1t	ステンレス	1.1t
	アルミ	0.7t	その他金属	0.0t
	ダンボール	0.1t	紙	0.8t
	OA用紙	9.2t		
水	上水	3.8千㎡	雨水	2.3千㎡

栃木日東工器株式会社

インプット
INPUT

エネルギー	購入電力	2,797.1千kWh	ガソリン	2.4kℓ
	灯油	135.7kℓ	LPガス	1.1千㎡
原材料	鉄	668.0t	ステンレス	116.9t
	アルミ	82.7t	その他金属	0.7t
	ダンボール	69.7t	紙	4.3t
	OA用紙	1.4t	化学薬品	0.0t
水	上水	2.3千㎡		

※タイ工場代替生産分を含む

白河日東工器株式会社

インプット
INPUT

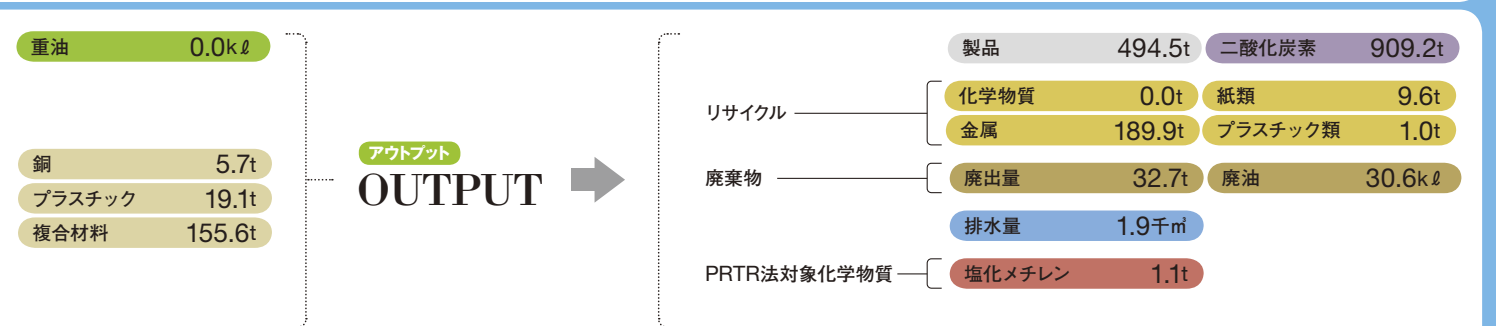
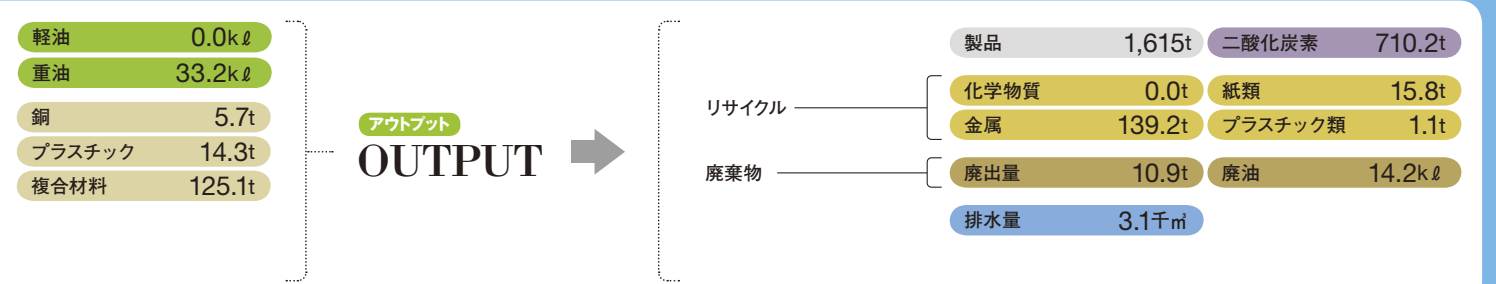
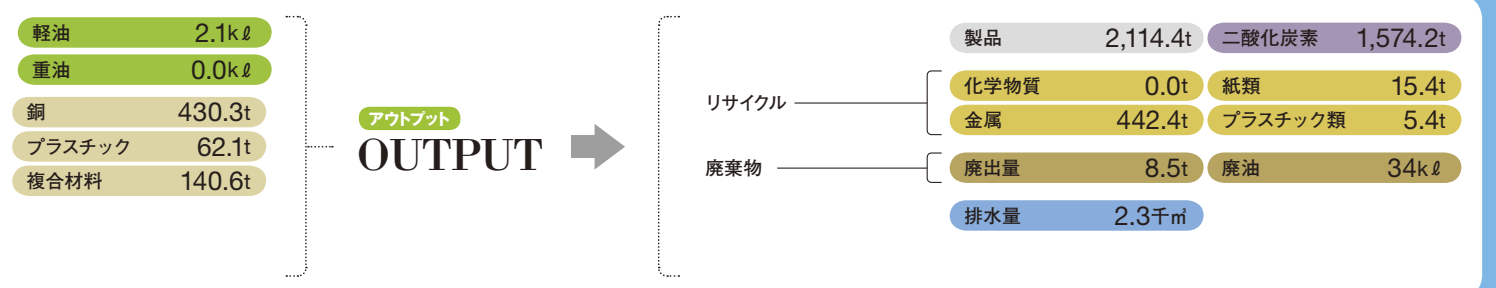
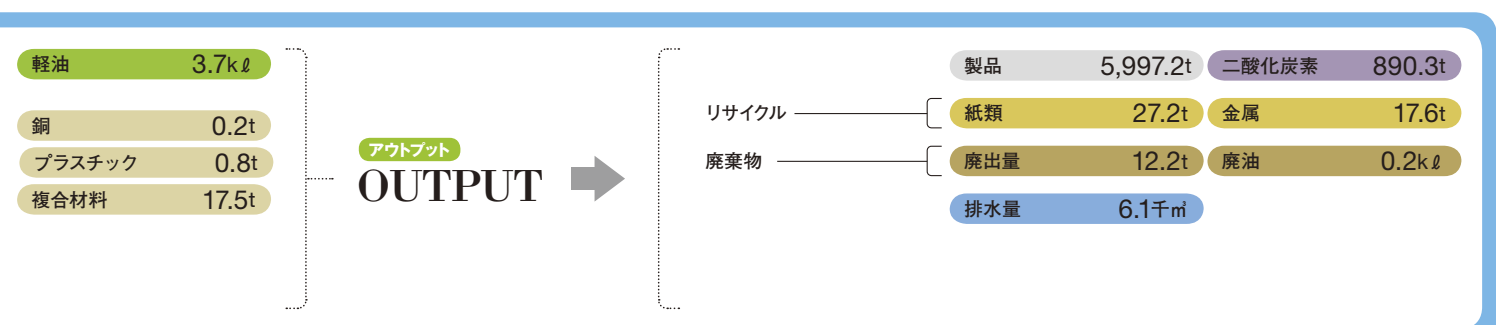
エネルギー	購入電力	1,407.3千kWh	ガソリン	0.6kℓ
	灯油	0.6kℓ	LPガス	0.0千㎡
原材料	鉄	477.1t	ステンレス	11.9t
	アルミ	20.8t	その他金属	3.5t
	ダンボール	32.8t	紙	3.3t
	OA用紙	2.9t	化学薬品	0.0t
水	上水	3.1千㎡		

株式会社メドテック

インプット
INPUT

エネルギー	購入電力	1,575.0千kWh	都市ガス	3.1千㎡
	灯油	42.1kℓ	LPガス	1.1千㎡
	ガソリン	1.0kℓ	軽油	1.9kℓ
原材料	鉄	249.6t	ステンレス	0.9t
	アルミ	43.6t	その他金属	0.7t
	ダンボール	23.9t	紙	5.6t
	OA用紙	0.8t	化学薬品	0.0t
水	上水	1.9千㎡		

環境負荷の低減を目指し、環境への影響の「見える化」を、継続的に取り組んでいきます。



製品含有化学物質への取り組み

製造メーカーとして、環境と人にやさしい、安全な製品をお客様に届けることが重要です。

日東工器では、社員への教育や環境に関する規制遵守、グリーン調達、製品含有化学物質の調査などを通して、より安全な製品を生産できる仕組みを構築しています。

環境教育の実施

地球環境への負荷軽減に対する認識を高め、環境マネジメントシステムを有効に機能させるためにさまざまな環境教育を実施しています。一般社員、環境マネジメントシステム活動の資格者、内部環境監査員、文書管理者、および各部門業務などのスキルに合わせた教育計画に沿って行いました。

2012年度は、社内教育として海外法規制に関する研修会、仕入れ先の実務担当者研修として外部講師による化学物質管理の運用に関する研修会をそれぞれ実施しました。



環境に関する規制の遵守状況

2012年度は、環境に関する法令違反・指導はありませんでした。ただし、RoHS指令適合品として販売を行った一部の製品に、制限値を上回る化学物質の含有が確認されました。対応として、出荷製品に関する情報開示、および対象となる製品の処置を遅滞なく行いました。これからも法令に基づく定期的な監視、地球環境の負荷に影響する設備の維持管理などに努めています。

グリーン調達

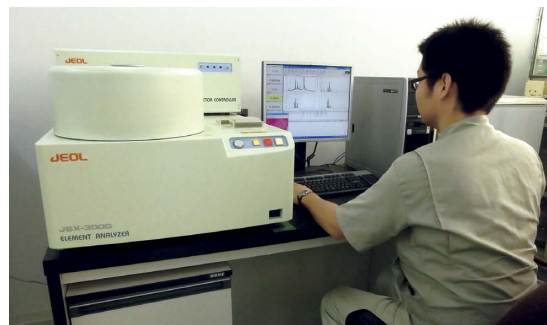
日東工器が2004年にスタートしたグリーン調達も8年が経過し、増加する化学物質管理に対する要求に対応できるよう、改善を重ねてきました。

グリーン調達は、日東工器だけでなく各生産拠点など日東工器グループ会社全体の足並みをそろえて対応する必要があります。そのため、グループ会社の担当者も参加し、毎月開催されるグリーン調達委員会で問題点を共有し、課題を解決する体制を構築しています。

仕入れ先へは、化学物質関係の法規制の最新情報を反映した調達基準を公開し、法規制に遵守した資材調達を推進しています。

グリーン調達に関わる情報は、製品ごとの化学物質含有量の集計、特定の化学物質が及ぼす製品への影響分析、仕入れ先への調査依頼などを効率よく実施するため、IT化されたグリーン調達システムにより管理しています。日東工器グループが仕入れ先より収集したデータは、このシステム上で保管されます。本格的な運用開始より2年目に入り、化学物質データの蓄積も順調に増加しています。

また、部品に含まれる化学物質がRoHS指令に抵触していないことを確認するため、蛍光X線分析装置を利用して定期的な分析を実施しています。今後も厳しさを増す化学物質関連法令の遵守とリスクの回避に寄与できるよう、グループ一丸となってグリーン調達に取り組みます。



蛍光X線分析装置による試料の確認

製品含有化学物質調査

日東工器グループでは、製品含有化学物質の調査をJAMP（アーティクルマネジメント推進協議会）が推奨するAISによって実施しています。

この調査には仕入れ先の協力が不可欠ですが、AISの操作が円滑な回答の妨げになっている部分もありました。そこで、栃木日東工器は10月末に、仕入れ先に対しAIS作成にポイントを置いた「製品含有化学物質調査に関する説明会」を実施しました。

「製品含有化学物質調査の必要性と現状」「調査の進め方」「調査書式の作成と回答方法」など、具体的な手順やその方法を説明しました。参加者は熱心に説明を聞き質疑応答も活発に展開されました。この説明会により、仕入れ先の調査に対する回答率が向上しました。

今後も安全な製品を送り出すために、きめ細かく対応し更なる展開を図っていきます。

製品開発

「開発は企業の保険なり」を社是とする日東工器は、研究・開発面でも大いに環境に貢献したいと考えています。環境に配慮した設計としてDfE (Design for Environment) 評価のクリアはもちろん、独自の技術開発でさまざまな環境保全の取り組みを支えています。

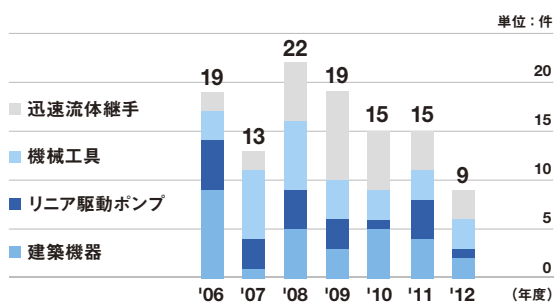
環境配慮設計

新製品・改良製品の設計において、環境に配慮した製品を開発するため、省エネルギー、省資源、再資源化、規制化学物質の不使用など、生産時・使用時・廃棄時の各ステップにおいて評価するシステムを取り入れています。

具体的には、当社従来製品と比較して3R (リデュース・リユース・リサイクル) や、分解性、解体性などの向上に取り組んでいます。

2004年度からDfEを導入し2012年度累計で142件の環境配慮製品を開発完了しました。

環境配慮設計 開発件数推移 2012年度までの累計：142件



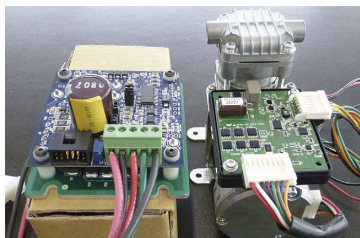
環境配慮製品の提案

医療・福祉関連機器業界では、環境配慮に対する要求が厳しく空気圧を利用している機器が数多くあります。日東工器ではこれらの機器の要求にマッチしたポンプを取り揃えています。

バッテリー駆動の携帯用酸素濃縮器に利用されるポンプは、小型軽量が必須条件です。また、ポンプの効率性はバッテリー容量の低減に、低騒音は筐体設計の自由度にそれぞれ寄与します。

ブラシレスDCポンプ「DP0410」はこうした要求をクリアし、更に耐久性など同クラスのポンプに対しての圧倒的な性能優位性を生かし、環境負荷の大幅な低減を実現します。

「DP0410」はポンプの駆動に最適化されたインバータ制御回路を一体化することにより、機器の小型化や信頼性が向上しました。そのため、検査機器、産業機械、理化学機器などの各分野で採用されています。



Eco TOPICS

警報器付ブロワ
型式 LAA-80

特長

- 当社独自のリニア駆動
フリーピストン方式により長寿命
- 圧力異常を検出しブザーとLEDで警報

ほこり、雨の浸入を防ぐ樹脂ケースにより保護等級IP54^(※1)に適合

本製品は、日東工器独自のリニア駆動フリーピストン方式のエアープンプを使用した警報器付ブロワ (型式: LAA-80) です。主用途の浄化槽は、家庭のし尿や生活排水をきれいにして放流する設備です。ブロワで空気を供給し、活性化させた好気性微生物で浄化します。配管や浄化槽などの不具合により空気の供給量が低下すると、浄化が不十分になり放流水質が悪化します。本製品は、内蔵の圧力センサーで空気供給の状態を常時監視しています。不具合が発生した場合はブザーとLEDで警報することにより、直ちに対処ができるため、最小限の汚染に抑えることができます。本製品は開発、生産だけでなく、その先の環境負荷の低減にも効果のある環境配慮製品となっています。

(※1) 保護等級 IP54 (防塵・防水)
International Protection

生産部門の取り組み

メーカーである日東工器にとって、生産現場での環境の取り組みは非常に重要です。多岐にわたる製品を生み出すそれぞれの生産拠点でどのような取り組みが行われているのか、国内の主要な生産拠点を例にとって説明します。

メドテック

2012年度メドテック事業方針説明会を6月23日、協力工場86社の出席のもと盛大に開催しました。

説明会はメドテック社長挨拶に始まり、工場長からの方針説明、納期遵守、原価低減、不良低減、グリーン調達などについて行いました。

特に、受入不良に対する統計を中心に今後の不良率低減を強くアピールしました。

グリーン調達の説明では、日東工器グループの「グリーン調達ガイドライン」「RoHS指令」「REACH規則」「JAMP AIS」など、当社の環境に対する取り組みを説明し、より理解していただきました。

また長年に亘り、当社の生産活動に寄与された協力工場に対して「感謝状」が授与されました。



栃木日東工器

環境への取り組みとして、工場敷地内の外構工事を実施しました。従来は大雨が降った場合、敷地内に降った雨が敷地外に直接排出されていました。

今回の工事で巨大な地下浸透槽を新設し、そこに通じる構内側溝および道路の勾配を見直して、降った雨水がスムーズに地下浸透槽から地中に流れ込むようにしました。構内の路面が整備されたことにより、荷物の運搬時の荷崩れ・落下などの恐れが減少し、安全性が向上したうえ、不良品の発生の減少などの波及効果もありました。

また、電力の削減として照明のLED化、自動販売機を節電機種へ変更したほか、加工時間の短縮、ムダの排除、作業の効率化など、個々には微少ですが日々改善を積み重ねています。2013年1月時点で年間換算35,681kWhの電力の削減に成功しました。



国内生産子会社の小集団改善活動

日東工器グループは、生産性・品質の向上、省エネ、廃棄物削減などの観点から、国内生産子会社の小集団改善活動を奨励しています。基軸となっているのは、社団法人日本プラントメンテナンス協会が提唱する中小企業向けのコンパクトな改善プログラム（C-TPM）です。各生産子会社ともC-TPM活動で事業計画達成など大きな成果をあげており、2011年度からは、各社の小集団改善活動優秀チームが本社に一堂に会して、子会社間の交流も図りながら発表会を行っています。

2012年度は、①生産ラインは増やさず、改善で大幅な生産増に対応（白河日東工器）、②従来とは異なる新しい生産方法を導入し、また加工用の補助装置を開発しコストダウン（栃木日東工器）、③煩雑な事務手続きの「見える化」を実施しグループ間での迅速な情報伝達を可能に（メドテック）するなど、各生産子会社の優秀チームからは現場から出たさまざまな改善活動の成果が発表されました。このような現場からの日々の活動の積み重ねにより、日東工器グループの生産性・品質は着実に進歩しています。



白河日東工器

白河日東工器では、世界的に高い評価を得ている電動ドライバ「デルボ」、軽量・コンパクトでドア回りのデザイン性を重視したアームレスドアクローザ「オートヒンジ」を生産しています。

当社では継続して活動しているC-TPM活動を柱に、日々改善を展開しています。改善内容も全社員に浸透しており、改善提案、個別改善、小改善の3本柱も毎月の目標を確実に達成しています。

2012年度の環境改善活動の主な取り組みを紹介します。

◎環境配慮のための新規設備投資

10月からロボット付のブローチ盤を新たに導入し消費電力量の約20%削減、自動化による工数低減、メンテナンス性の向上が図れました。

◎リサイクルによる廃棄物の削減

2012年度は、紙類の分別リサイクル推進により廃棄物削減に大きな効果をもたらし、環境負荷軽減に貢献することができました。また、社員一人ひとりのリサイクルに対する意識も高まっています。廃棄物量の削減により定期収集の回数を減らすことができ、経費削減にもつながりました。2013年度は、プラスチック類・ビニール袋・PPバンド・廃蛍光管までリサイクル対象を拡充させ、徹底した分別で廃棄物削減に取り組んでいます。

拠点概要



株式会社メドテック

- 事業内容：空気・油圧・電動式の各種省力化機械ツールの製造
- 従業員数：88人
- ISO014001認証の取得年月：2010年3月



栃木日東工器株式会社

- 事業内容：迅速流体継手（カブラ）、リニア駆動ポンプの製造
- 従業員数：159人
- ISO014001認証の取得年月：2001年11月



白河日東工器株式会社

- 事業内容：電動ドライバ、建築機器（ドアクローザ）の製造
- 従業員数：91人
- ISO014001認証の取得年月：2011年2月

タイ工場の洪水対策

2011年10月、上旬タイ国で発生した記録的な大雨による大規模な洪水により、現地生産子会社のNitto Kohki (Thailand)（以下、NKT）およびNitto Kohki Coupling (Thailand)（以下、NKCT）は、操業を停止しました。

2012年12月、従来の敷地内に洪水対策として2メートルかさ上げをした2階建ての新社屋を完成させました。新社屋完成までは、タイと日本国内に代替工場を立ち上げ、対応してきました。新社屋の完成により、これまで、別々の社屋で操業していたNKT、NKCTは、新社屋で操業を再開しました。



タイ水害時



タイ新社屋

※NITTO KOHKI COUPLING (THAILAND) CO., LTDと
NITTO KOHKI (THAILAND) CO., LTDは2013年4月1日に合併し
NITTO KOHKI INDUSTRY (THAILAND) CO., LTDになりました。

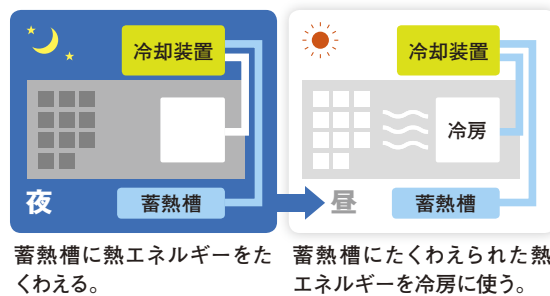
オフィスの取り組み

本社社屋は建築物総合性能評価システム（CASBEE）で、最上級の「S」ランク相当に評価されています。全国の支店、営業所でも、省エネをはじめとして、環境負荷を低減させる取り組みを続けています。

最大使用電力量の削減

- 夏場は蓄熱式空調システムを利用
冷房のためのエネルギーを夜間蓄熱し昼間使用しています。
- 実験機器のピーク時間帯稼働停止
- 節電の取り組み
洗面給湯節電、便座暖房節電およびLED照明への切り替えを実施しています。
- 電力使用状況モニターによる情報共有

蓄熱式空調システム



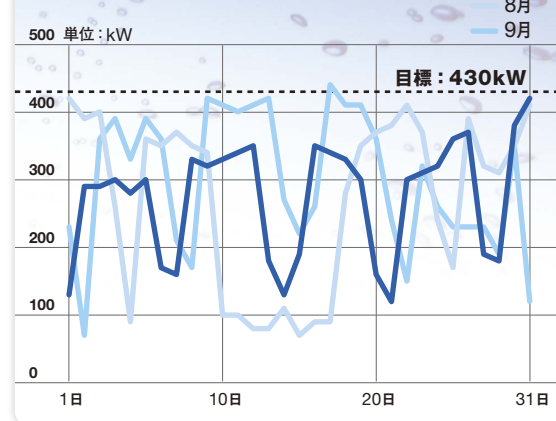
雨水利用量

社屋の給水システムでは、雨水を地下貯水槽に溜め、トイレ洗浄用に利用しています。その効果もあり、2006年度と比べると本社の上水道使用量は、約50%削減できました。

オフィスの室温管理

本社が竣工してから、約3年が経過しました。実際に使用すると、各フロアのエレベータホールに近い席では、冬場の室温が上がらず、快適に作業ができないことが分かりました。そこで外部からの冷気流入を防止するために、事務所とエレベータホールを仕切るドアを各フロアに設置しました。以前と比較すると、体感的にも寒さに対して大きな効果が得られました。さらに暖房効率が向上したことで、2月の電力使用量実績は前年同月比で約11%削減することができました。

最大使用電力の推移（日東工器本社）



雨水利用による水道使用量の削減（日東工器本社）



名古屋支店のオフィスの取り組み

◎社内照明をLED化し節電

電力使用量の削減のため、支店内の2階にある事務室と1階にあるサービス課の照明をLED照明に変更しました。その結果、電力使用量によるCO₂の2012年度排出量は年間8.5tで、前年比25%削減できました。

◎コピー用紙使用量の見える化

毎月のコピー用紙の削減目標（使用量580kg以下/月）を達成するために、コピー用紙の両面を使用することに加え、その月の使用可能分を配置し誰もが残り数を確認できるよう「見える化」しました。その結果によるCO₂の2012年度排出量は、年間0.21tで前年比40%削減できました。



2 社会への取り組み

Part 1

地域とともに

日東工器グループは社会や地域の皆様とともに成長する企業でありたいと考えています。事業活動や付随する活動で地域や社会に貢献し、皆様に信頼され、良好な関係を築いていくために、さまざまな活動を行っています。

社会や地域と良好なコミュニケーションを築きます。



第12回エコフェスタワンダーランド 日東工器株式会社

「第12回エコフェスタワンダーランド」が日東工器本社から程近い小学校で2013年2月24日に開催され、日東工器も参画しました。

この催しは、大田区が主催し、地元企業・学校・ボランティア団体などが協働で、毎年本社のある大田区の小学校を開催場所として実施しています。参加団体と子どもたちの交流の中で、子どもたちに環境意識を高めてもらうことを目的としています。

日東工器としては3回目の参加で「里山からの贈り物」をテーマに、アケビのツルや松ぼっくり、どんぐりなどを利用した飾り（リースやツリー）作りと、「実際に触

れて動かして理解してもらうため」の環境に配慮した日東工器製品のデモ機を展示しました。

日東工器のブースは順番待ちが出るほど盛況で、飾り作りの材料が不足してしまうほどでした。来場した子どもたちや保護者は、小学生のボランティアスタッフとともに飾りの製作をしたり、目をきらきらさせてデモ機を動かしたりして楽しんでいました。

日東工器は、これからも地域に根ざした催し物に参加し、地域に貢献する企業として、愛される会社を目指していきます。

日東工器株式会社

多摩川河川敷清掃活動に参加

2012年6月17日に多摩川河川敷清掃活動に日東工器の役員・社員18人が参加しました。この多摩川河川敷清掃活動ボランティアは、1973年から大田区が主催している活動です。今回は、地域の企業、学校法人、自治会など50団体、2,500人が参加。多摩川河川敷に放置されていた廃棄物を回収、一掃することができました。開始当初は、小雨模様でしたが清掃活動後のセレモニー時には、青空も広がり緑が美しく印象に残っています。

地域ボランティアに参加する機会はまだまだ少なく、私たちがどこまで貢献できるかは、わかりませんが、地域の人々とのコミュニケーションをとり継続することが大切だと考えています。



栃木日東工器株式会社

「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」に参加

2012年7月14日、第22回目となる「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」が開催されました。栃木日東工器は地域環境活動の一環として5回目の参加で、早朝7時から社員とその家族計21人で参加しました。

当日は前夜からの雨が残ри、早朝の段階では開催か中止が微妙な状態で、参加者が少ないのではないかと不安がありました。しかし、開始時間には晴れ間ものぞき、当社の社員を含め他の参加者も多数集まり、雨露の残る草むらを掻き分けながら約1時間、河川敷のゴミを拾い集めました。

鬼怒川やその河川敷は、希少な動植物が生存する貴重な場所です。それにもかかわらず、心ない人によって多種多様なゴミが捨てられていました。また、流れてきたゴミも多く、日本人の「水に流す文化」は改めることが必要と感じました。「きれいな水が流れるゴミのない鬼怒川」を後世に残せるよう、ゴミを捨てない社会が期待されます。当社としても、そのような社会作りに貢献していければと思っています。



「森づくり」と「会社周辺清掃活動」：株式会社メドテック

「みんなで花いっぱい森を作ろう」に18人参加

山形県最上郡真室川町のボランティア団体「ふるさと山の会」主催の植樹活動（総勢130人参加）に、メドテックからは社員とその家族、合計18人が参加しました。この活動には昨年参加し、今回で2回目です。

今回も「栃の木」の苗木150本が用意され、1人1～2本を山の斜面に植樹しました。当社は、植樹の記念に苗木の枝に参加者の名前などを書くための木製プレート（メドテックのロゴ）を、地元で育った「金山杉」で製作し提供しました。参加した社員は、みんな気持ちの良い汗をかき、自然のすばらしさや、人とのつながりの大切さを感じました。



「遊歩道整備」と「下刈り」に参加

山形県と企業、森林所有者の3者協定による森作りの環境活動、「やまがた絆の森プロジェクト」が開催されました。2012年度は、第7回の「遊歩道整備」、第8回の「下刈り」に当社からも参加しました。

遊歩道整備では、チップを袋に詰め、遊歩道に撒き、仕上げにならす作業を、参加者で分担し、安全で歩きやすい遊歩道にしました。誰かに喜ばれる「やりがい」を感じ、森づくりに関する「木付き」を体験しました。下刈りでは、周囲に茂る雑草や低木を刈り取り、苗木に十分な日光を与える作業を行いました。手のひらの皮がむけるほどのハードな作業ですが、心地よい疲労感を体験しました。この森作りの活動に参加して「チームワーク」というタカラモノを見つけました。



会社周辺清掃活動の実施

当社では、毎月第1月曜日に、草取りやゴミ拾いなどの早朝清掃活動を行っています（12月～3月は冬季のため実施していません）。会社周辺の道路、公園などの清掃を行い、近隣とのコミュニケーションをはかる地域貢献活動を行っています。最近では会社周辺のゴミも少なくなり、地域全体で環境意識が向上していると感じます。これからも地域貢献活動を続け、クリーンな会社づくり、地域づくりに取り組んでいきます。



顧客との関わり

日東工器グループは営業活動を通して、地球環境への貢献を目指し環境配慮製品を中心に、お客様により近く、お客様の目線に立った“提案型の営業”を積極的に進めていきます。

営業部門の取り組み

お客様により近い営業活動を目指し、地域に密着した展示即売会「アタックフェア」「アタックキャラバン」「出前フェア」を中心にお客様のニーズに合わせた営業活動を行っています。この展示即売会に合わせて省エネ製品の研修会を開催し、「体感コーナー」を設け実際に「見て・触れて・動かす」を体感していただくことで、より深く製品を理解していただく営業活動を展開しています。

液だれを大幅に低減し、無駄を省くことで環境保全に貢献するゼロスピルカブラ、工場配管を簡単に効率的に敷設できるエアライナー、エアの圧力の損失を低減するフルフローカブラなど「工場の省エネなどに貢献す

る」ことを体験してもらえらるコーナーを設置しています。

これらの活動を支えるのが、日東工器独自の販売・流通組織「日東会」です。日東工器製品とマーケットを熟知した販売店とが連携し、地域に密着したきめ細かな営業・アフターサービスなどの活動を展開しています。

また、営業活動の環境負荷低減のため、営業車をハイブリット車など燃費の良い車の採用を推進し、営業担当者には省エネ運転のための講習会を実施して、自動車燃料の削減にも取り組んでいます。

「環境に配慮した製品の販売により、お客様に使っていただくことで、エネルギー資源の節約に、少しでも貢献したい」。これが日東工器の願いです。

東部ブロック



ゼロスピルカブラでは、「液だれが減る」「清掃が楽になる」「液体の無駄な使用を減らせる」ことを体感するコーナーを設置。



フルフローカブラの体感コーナーでは、「小さな力で接続できる」「離脱時の反動がない」ことを体感。



エアライナーの体感コーナーでは、「設置および変更が容易にできる」ことを体感。

中部ブロック



新聞社主催の見本市に出品し、環境改善に繋がる日東工器製品の普及活動を提案。



日東工器の環境改善製品を広く普及させるため、登録販売店対象の研修会を実施。



日東工器オリジナル展示会「アタックフェア」を5箇所で開催。来場されるお客様に省エネ関連製品を積極的に提案。

西部ブロック



「アタックフェア」を13箇所で開催。省エネ関連製品を積極的に提案し、環境性能を体感。



研修参加者が「フルフローカブラ」「ゼロスピルカブラ」の環境性能を体感。



研修参加者が「エアライナー」の施工のし易さを体感。

お客様への製品の提案活動を通して環境負荷の低減を行います。

学生との関わり

日東工器グループへの入社を希望し就職活動を行っている学生をはじめとして、次世代のモノづくりを担っていく学生との交流を深め、若い世代の成長に貢献していきます。

会社説明会から入社まで

「開発は企業の保険なり」

これは日東工器が創業以来掲げている社是であり、毎年の新卒採用活動における大切な理念の一つです。日東工器は大量採用および派手な採用活動は行いません。日東工器の経営理念に賛同し、同じ考えを持つ人材を採用するために、会社説明会や、筆記試験、面接、グループディスカッションなどの選考を積み重ね、内定者を決定します。

内定が決まってからは、ビジネスマナーを学ぶ外部研修や通信教育、工場見学会などを通じて、入社まで内定者をフォローしていきます。これらは、日東工器への

入社意欲を高めてもらうだけでなく、同じ仲間として、内定者同士理解を深めてもらう狙いもあります。

しかしここまではあくまで準備期間です。入社後、実際に働きはじめてからが本当のスタートとなります。会社として新人の育成を行い、成長を促すことも人材「開発」として大事にしています。



インターンシップを開催

2012年9月、日東工器においてインターンシップを実施し、理系の大学3年生5人が参加しました。

「モノづくり」の流れを学んでもらうことを目的とした研修内容で、2週間という限られた期間内に、製品の企画から設計、製造までの一連の流れを体験してもらいました。

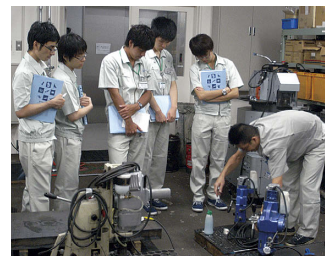
大学とは全く違う環境で過ごすため、初めは慣れない通勤、作業や道具に戸惑いを隠せなかった学生も、日々の仕事を通じ社員とのコミュニケーションもとれるようになり、積極的に仕事を体験していました。

将来は、開発設計職としてのキャリアを歩みたいと

言っていた学生たち。「インターンシップで実務や本物の会議参加、製品組立などを行い、非常に良い経験となった」という感想が寄せられました。

また、日東工器としても学生の考え方などに触れ、双方にとって有意義なインターンシップでした。

今後社会人となる参加者の活躍に期待したいと思います。



「働く現場見学会」を開催

東京経営者協会の主催する「働く現場見学会」を2012年7月10日に日東工器本社で実施しました。協会会員大学の学生と、各大学キャリアセンター職員の計20人が参加し、日東工器の若手社員と交流を含め社内見学を行いました。

今回実施した見学会は、「働くことについて考える」という切り口で行われました。参加大学生は3年生が多く、「働くこと」や「就職」について、真剣に向き合っていることが感じられ、大変貴重な時間になったことと思います。社内見学では、ショールームで日東工器の製品群に触れ、説明する社員に次々と質問を投げ掛けていました。

参加した学生からは「職場で実際に仕事をしている人から話を聞くことができ、とてもよかった」「初めて知

ることが多く楽しかった」という声があり、また大学職員からは「現場に足を運ぶのは学生にとっても、大学職員にとっても大切な機会であり非常に有り難い」という声を聞きました。今回は、当社の見学を通して働く現場を少し身近に感じていただけるきっかけになったことと思います。

初めて実施したイベントでしたが、次世代育成支援や地域貢献への観点から今後も継続的に受け入れていきたいと思っています。



未来を担っていく若い学生との、信頼関係を深めていきます。

社員および家族との関わり

社員が能力を発揮するためには、安心できる職場環境が不可欠です。

社員とその家族に信頼され、日東工器グループで働くことに誇りが持てるような取り組みを続けていきます。

子ども参観日

次代の社会を担う子ども自身が健やかに育っていきける社会、安心して子どもを生み育てることができる社会を形成していくための、「次世代育成支援」の一環として、2012年8月6日に、『子ども参観日』を日東工器本社にて実施しました。

社員の子どもを会社へ招待し、お父さんやお母さんの仕事を直接見てもらい、会社で働くことへの理解を深めてもらうことを目的としました。

参加した子どもは、4歳から16歳までの13人。当日、子どもたちには日東工器の製品にふれてもらいながら説明をし、穴あけ作業見学や無響音室での実体験も行いました。また、お父さんやお母さんの職場を訪問し、働いている姿を見学し、最後に家族一緒に昼食で親子でのコミュニケーションを図りました。

2時間半の限られた時間の中で、子どもたちは興味津々な様子で質問をしたり、笑顔でお父さんの椅子に座ったりと、元気一杯に楽しんでくれました。

参加した子どもの保護者からは「子どもたちにとってよい経験になった」「お父さんの会社でつくっているものや、働いている姿を知ることはすごく良いことだと感じた」といった感想が寄せられました。

『子ども参観日』は初めて実施しましたが、これは次世代育成支援の第一歩です。

今回の経験を活かして、今後も継続的に実施していきたいと思います。



ライフプランセミナー

2012年7月28日、日東工器本社にて日東工器グループの55～59歳の社員を対象に『ライフプランセミナー』を開催しました。



このセミナーは2001年から継続しているもので定年後の人生を有意義に過ごすため適切な情報を提供し、定年後における生涯設計の支援を目的としています。

セミナーでは、社会保険・公的年金のあらましや、定年時や退職後の煩雑な手続きや、定年後の家計プランの講義が行われました。参加者は講師の話の聞き漏らさないよう熱心にメモをとっていました。数年後に迎えるセカンドライフに必要な生活資金の計算になるとさらに真剣な表情に。講師は、今のうちから「定年後も続けられる趣味」「生きがいとなるもの」を見つけていることが大切と繰り返し話していました。

参加者からは「定年後の家計プラン等の考え方を知ることができ、大変有意義だった」といった感想が寄せられました。今後も、社員が安心して第二の人生が過ごせるよう支援していきます。

社員が安心して働くことができ、家族と一緒に幸せになれる企業を目指します。

障害者の仲間など

日東工器就労支援

日東工器に養護学校の生徒が初めて入社したのは、今から10年前のことです。当時は、養護学校生の受け入に戸惑いもありましたが、養護学校や就労支援団体の皆様の協力により勤務が実現、本人と社員が積極的にコミュニケーションをとり職場の雰囲気も明るくなりました。2012年に開催された就労者激励会で、勤続10年表彰を受けました。



栃木日東工器就労支援

栃木日東工器では、障害者就労支援として近隣の障害者支援施設と工場を結ぶ自社便を毎日運行し、完成した製品を梱包する業務を委託しています。

長年の業務委託の経験の中で、社員でも気付かなかった「いつもの製品との微妙な違い」を指摘され、品質の向上にも貢献していただいたこともありました。

現在、その施設から1人の方を社員として採用しており、コンピューターへのデータ入力作業を担当しています。

2012年7月には栃木県障害者技能競技大会のワープロ部門に参加し、第3位に入賞するなど活躍しています。

また、栃木日東工器には、車椅子での移動を要する社員も勤務しており、トイレや駐車場の改修を実施し就労しやすい環境整備に配慮しています。



白河日東工器就労支援

白河日東工器では、地域の養護学校から工場の実習体験を受け入れています。5年前の実習体験がきっかけで入社した社員も、今では金属部品の仕上げ作業では誰にも引けを取りません。集中力を切らさず着実に粘り強く作業をこなす姿に同僚も励ましの声を掛け、笑顔で応えるなど日々勤務しています。



社員向け決算説明会

日東工器は1995年に株式を店頭登録し、東証第二部への上場を経て2000年に東証一部上場企業となりました。株式上場は様々なメリットを享受できますが、それは同時にパブリックカンパニーとしての社会的責任がより重いことを意味します。

日東工器は経営の透明性を重要な経営課題として掲げており、企業活動の環境変化に対応したコーポレートガバナンスおよびコンプライアンスの強化に努めてきました。企業活動の結果である決算も、東証での発表に加えてマスコミや銀行・証券アナリストを対象に独自の決算説明会を開き、不特定多数の投資家への正確

な情報伝達の一助としています。

さらに「社員は重要なステークホルダー」との位置づけから、若手からベテランまで全社員を対象とした社内決算説明会を行っています。同説明会は外部向けと同様に年2回（半期、通期）開催し、企業トップが業績とバックグラウンドを詳細に説明、企業活動と社会との関わりについて理解を深めています。





日東工器株式会社

- 本社：〒146-8555 東京都大田区仲池上二丁目9番4号
- TEL：03-3755-1111(代)
- URL：<http://www.nitto-kohki.co.jp>